

2025年6月20日

学校法人三幸学園
横浜こども専門学校
校長 加藤 充洋 殿

学校関係者評価委員会
委員長 酒井 元希

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 酒井 元希 (飛鳥未来高等学校横浜キャンパス キャンパス長)
- ② 秋本 祐輔 (第4期卒業生・NPO法人地域活動支援センターあいの木 管理者)
- ③ 中尾 美代 (チャイルドケア事業部 キッズ大陸統括園長)
- ④ 椿 若奈 (株式会社共立メンテナンス 人事採用担当)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月20日(会場 横浜こども専門学校 304教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 横浜こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 大川 正裕

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 酒井 元希

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

本校では教育目標として「愛され 8 か条」を定めており、①挨拶する人 ②時間を守る人 ③素直な人 ④謙虚な人 ⑤感謝する人 ⑥前向きな人 ⑦協力する人 ⑧チャレンジする人 8 項目を 2・3 年間で身に付けられるように日々の指導を行っている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・退学率低減 2024 年度目標数値未達成のため低減できていない現状

【2024 年度目標(休学者含む)】

1H1K 10%未満 / 2K 5%以内 / 2H3K 2%以内

・入学者の維持

2024 年度 入学生 217 名 → 2025 年度入学生 189 名

・2025 年度に向けて多様化する生徒に対応できる体制作り

・姉妹園との連携で、保育の魅力等会議にて勉強会実施

・通信制高校の理解のため勉強会

・教職員が安心して仕事ができる環境作り

・教育開発部からの研修やHR内容の活用

② 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：飛鳥未来高校でも卒業学年の 3.7%程度退学をしている現状がある。

伊藤さん：自校の退学の理由として、精神的な理由や進路変更を理由にする生徒が多い。

大川さん：コロナ渦は退学数が少なかった。理由として、人と関わる機会が少なかった(オンライン授業、行事の中止等)ため、生徒の負担は軽かったことが考えられる。今は 5~6 月頃に人間関係や体調不良により登校ができない生徒が目立っている。ここ数年、同じ理由の対応に悩まされている。

酒井委員：コロナ渦にできていた対応は今の時代にできるのか？

伊藤：ハイフレックス授業を今年度より導入（希望者のみ）。学校に来て授業をオンラインで参加する。
まだ2025年度は対象者がいない。

大川：（ハイフレックス対象者について）姉妹校の医療校はオンライン授業を運用している。（自宅受講可）保育分野は大宮校と福岡校は積極的に運用している。職業上、オンラインよりも対面で授業が受講できることが望ましい。

中尾委員：姉妹校によって生徒の気質が違う。挨拶ができるかどうかも全然違う。地区エリアによって生徒の気質の差があるのかもしれない。全体的に今の世代の特徴としてメンタル面が弱い生徒が多い印象がある。

大川：近年、高校までは自分で選ぶ時代になってきた。しかし専門学校に進むと就職先を自分で選べなくなり、決められたことを進めていくようになる。具体そのギャップに苦しんでいる印象。

中尾委員：保護者は自分の子に対して、子どもが好きなら保育分野の職業に促そうとするが、子ども本人の意思が弱い場合は入学してから苦しんでいる。

大川：オープンキャンパスの保護者会では、どちらかというと自分の子が保育分野で活躍ができるか心配をしている声の方が多い印象。保護者としても職業に対してネガティブに感じている方もいる。

中尾委員：元々心の弱い子からすると、保育という職業は特に人と関わる職業のため苦しいかもしれない。対応が難しい生徒でも学校としては退学せず卒業してほしいと思うのは当然だが、現場としては子どもの命を預かっているため、協力をしたい気持ちもあるがジレンマも感じている。

秋本委員：退学率が低かった時代（コロナ渦）のヒントを元に、今できる具体的な改善策を考えると良い。退学理由に「目標喪失」が多いが、そもそも目標を持って入学している生徒が何名居るのかをデータとして取るのも良い。中長期的にデータを取りながら積み重ねていくと退学率を下げるヒントが出ると思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・まだ保育士不足の現状や必要性を伝えきれていない
- ・園、施設と情報共有を行い、保育業界の動向や求める人材像を正確に捉えること
- ・人材像や指導目標は定められているが、1年間通しての具体的な指導計画の策定までは至っていないこと
- ・新入生保護者説明会や定期的な保護者への案内の送付などで理解を促してはいるが、どこまで理解をして頂けているか不明な状態であること

② 今後の改善方策

- ・横浜市など役所と連携を行い、正しい情報を生徒および新入生等に伝え続けること
- ・就職先や実習先との積極的な関係構築(実習就職連絡協議会の実施)
- ・カリキュラムマップを元に学科別、学年別の到達目標を作成し指導内容の統一を図る
- ・生徒に対しても到達目標を明確に伝え、面談等を通して適切なフィードバックを行う

③ 特記事項

- ・年3回の全体会議にて、学園教育理念・ビジョン・ミッション・本校教育目標を教職員へ周知を図っている
- ・教育開発部のオンデマンド授業など活用
- ・カリキュラムマップを元に人材育成像の整理を行った。
- ・入学前に保護者と新入生全員に来校していただき、学校の説明など実施。学校開始後生徒の様子を伝えるため保護者会を全学年学科実施
- ・姉妹園の園長先生や実習指導の教員に来校していただき、担任に向けて業界講話を実施

③ 学校関係者評価委員会コメント

椿委員：寮との連携で何かできることがあれば協力をしたい。保護者と寮長寮母が連絡を取り合うことも珍しくない。学校からも生徒に関することは寮長寮母に直接連絡を取っても問題ない。

伊藤：新入生保護者会に参加できない場合は、直接資料を学校まで取りに来るようお願いをしている。入学前に不安なことなどのヒアリングをしている。入学前の参加率は高い傾向。入学後は参加率が低い。

大川：生徒が退学をしたい場合、保護者が止めずに承諾してしまうことも多いため、保護者にも協力をいただきながら退学を防止していきたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・こども分野の目標と本校の現状を踏まえた上での運営方針の決定が難しい状況
- ・業務過多にしないため人事、労務、就業環境の整備に努め、業務の効率化を図る必要がある
- ・校務には担当主任が担当者と確認をしながら業務を進めているが、校務担当が主体的に業務を進められるように人材育成をする必要がある
- ・各教育活動の目的目標を明確にし、取り組みや活動については積極的に公開し、振り返り改善に努める
- ・教務管理システムが導入（WEB 出欠など）され業務削減に繋がっているが、運用上のルールの徹底が必要
また教職員の理解も必要となる。
- ・実施事項の多さや生徒対応に費やす時間増のため、時間外労働時間の増加

② 今後の改善方策

- ・2024 年度より新人事制度（個人の目標や評価の見える化）により、評価者および非評価と面談を行い、意見交換ができる
- ・評価者が明確な理由で評価できるよう、密に情報共有を行う
- ・目標達成ができるような定性的な部門目標の作成をする。（退学率目標、教務目標、授業アンケート等）
- ・様々な管理システムを利用しながら、シンプルな体制作りに努め、適時教員に発信をしていく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

秋本委員：3年間で残業時間を48%削減できた。（全職員20名程度）具体的な策として、自分で計画性を持って仕事することを意識した。手書きの作業をなるべく減らし効率化を考えICT化を進めた。

椿委員：ペア担当制を導入。電話対応は担当を分けている。属人化していた業務が多かったため、業務の偏りがあったがペアで役割分担をして場合によっては上司に入ってもらいながらシェアをしている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・育成人材像、愛され 8 か条、カリキュラムツリーなど様々な指標をリンクさせ人材像を明確化および教職員に浸透させること
- ・授業が週 1 度の教員にも人材像や到達目標を教職員が理解をし、指導内容の統一を図る必要がある
- ・生徒の多様化により、一人一人の到達目標を理解し、必要に応じて生徒及び保護者へフィードバックを行うこと
- ・現場と学校指導の差を埋める必要があり、今まで以上に意見交換の場を増やす必要がある
- ・ICT を活用した教育活動に関する知識、経験不足
- ・多様化する生徒、様々な事情を抱えた生徒の対応方法(時間・知識等)

② 今後の改善方策

- ・保育教育福祉の現場を知るための教員向け勉強会を定期的実施する
- ・関連分野との連携を積極的に行い、生徒が学外で学ぶ機会を多く作る
- ・同法人の保育施設との連携強化を行い、運営メンバーが見学および体験をする機会を設ける
- ・各教員の授業アンケートのフィードバックを面談にて随時実施していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：高校ではバディ制を導入して、何かあれば教科担当と担任メンバーが連携を図っている。全体会議を年間3回開催している。

伊藤：本校も運営会を作って連携をしている。ただの連絡係にならないように、普段からコミュニケーションを取り良い関係性を築いていきたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・保育士等になりたいという目標を喪失することなく、学習意欲を継続させる指導
- ・実習で目標喪失をする生徒もいるため、実習中の訪問強化および実習前後のフォローの徹底
- ・多様化する生徒への個別対応方法
- ・卒業後1年未満の早期退職の防止策
- ・卒業生との継続的連携方法

② 今後の改善方策

- ・担任と教科担当教員の情報共有の徹底。メールの報告で終わらせないようにする
- ・学生が面談や相談をする先を複数準備し、全教職員で対応ができる体制作り
- ・卒業生支援の体制構築(同窓会の活用)
- ・一般企業(保育関係)への就職強化
- ・早期内定に向けての支援
- ・目標喪失の生徒に対して、キャリア探求活動の活用
- ・スクールカウンセラーの有効活用(案内方法の工夫)
- ・ハイフレックス授業(同時双方向型授業)の導入

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員:スクールカウンセラーの対応について、現在は職員室またはメールにて予約を受け付けている。

秋本委員:卒業支援として同窓会に参加し、働く意欲につなげていく。卒業生に授業へ参加してもらい、現場の話を伝える取り組みを提案。現実的な面を知ることが、社会人になった際の学びや意欲向上につながると考える。就職先との協力体制の構築が必要。1年間のフォロー体制があれば離職を防げる可能性がある。事前打ち合わせの必要性も指摘。

相澤:同窓会の目的として退職者を減らすことが挙げられる。園側から学校に対して新卒生徒へのアドバイスやコミュニケーションが可能である。

大川:事例学習は実施しているが内容が深くない。特に4月は激務となる傾向にある。悪い環境が続くと認識される可能性があるため、担任がしっかりと説明を行っている。配属先がわからない状態での就職は不安

が大きいため、事前に情報が得られるようにしたい。

中尾委員： 新卒で入社後に退職する事例がある。学生時代は優秀でも、入社後に壁にぶつかる。自信を失い、他責的になってしまうケースも。自身の適性としては保育園の方が合っている例も。

社会の厳しさを専門学校にて早期に伝えていくことが大切。社会人としての事前情報の有無は、学生と社会人との線引きを意識させるために重要。フォローは専門学校来訪時のみで良いという考えを示す。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・エリア担当制で担任以外も実習や就職に関する支援体制はできているが、変化をする就職環境の情報収集を行い、日々の指導に浸透させていくこと
- ・様々な奨学金が整備され学ぶ環境の担保ができたとしても、生徒自身の学ぶ意欲を継続させる方法
- ・生徒を取り巻く環境(実習先・就職先・保護者・卒業生など)とのネットワーク作り
- ・保護者の働き方が多様になり、就業時間内での連絡が取れず、教職員の時間外労働時間の増加
- ・中途退学者に対して学校へ連絡がない限りフォローができていない状況

② 今後の改善方策

- ・実習巡回を行う際に、就職内定先にも訪問を行うようにして卒業生の情報を取りこく
- ・奨学金貸与者に対して、保護者も含めて理解を深めるようにしていく
- ・一般企業(保育分野)の就職活動の把握
- ・多様化する生徒に対応するためにもスクールカウンセラーの効果的な活用方法の検討
- ・卒業生との連携強化をするため同窓会のツールの充実を図る

③ 特記事項

三幸学園ファミリー奨学生制度、寮奨学生制度、特待生学費免除制度、初期費用軽減・学費分割制度、日本学生支援機構奨学金制度、保育士修学支援制度、教育訓練給付金、三幸学園経済支援制度

④ 学校関係者評価委員会コメント

相澤さん:学費の問題を理由に退職に至るケースが見受けられる。また、保護者との連携が得られないことが、支援体制の構築において課題となっている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・ICTを活用した授業を実施できていない
- ・ICT関係に精通した教員が少ない
- ・シラバス上の実習室や設備の整備は行っているが、日々現場から意見を頂きさらに充実が求められる

② 今後の改善方策

- ・教育環境の振り返りと改善の継続と保育現場からの情報収集の実施
- ・ICTを活用した授業内容の策定、教員の情報リテラシーの向上のための研修実施
- ・教職員へ全体会議にて防災に関するマニュアルの確認の実施
- ・年に1回以上、避難訓練の実施

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

相澤:ICT関連の見直しを行っている。また、避難訓練の実施についても取り組みを進めている。

中尾委員:不審者対応、台風、洪水などを想定した多数の避難訓練を実施している。

椿委員:寮においては、定められた回数に基づいて避難訓練を実施している。

秋本委員:自身の学生時代に避難訓練を実施した記憶はなく、訓練の重要性について再認識する必要性を示唆。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・18歳人口の減少が進む中、保育業界の就業を希望する入学者の確保
- ・保育業界の人気低迷のため希望者の減少
- ・本校の認知度向上と強みや特色を入学希望者や保護者へ打ち出すこと
- ・SNS活用の強化

② 今後の改善方策

- ・保育業界理解および魅力を伝えていく
- ・他校との差別化をするため本校の教育理念や特色を入学希望者、保護者へ分かりやすく伝えること
- ・高校生等がオープンキャンパスに参加しやすくするため、夜のオープンキャンパスなど開催

③ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

相澤：全体的な状況として、人口減少や保育職の人気低下により、工夫を凝らすことが難しくなっている現状がある。その対応策として、SNSの活用方法を検討中。オープンキャンパス(OC)においては、複数の講座を設け、参加者が自由に体験を選べるようにしている。

中尾委員：保護者の参加状況について質問。

大川：保護者会への積極的な参加を促している。

秋本委員：SNSを活用する際に一定の費用をかけることは効果的ではとの意見。卒業生に文化祭への参加を呼びかけることを提案。出張クラブ活動の実施も一案として挙げた。

中尾委員：園児の募集活動や採用活動においてもSNSを積極的に活用している。広告については、ターゲット層に響くような内容構成を意識して配信している。

椿委員：寮ではインスタの発信を行っている。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・継続した法令遵守の徹底

② 今後の改善方策

・コンプライアンス研修の定期的な実施

・教職員に対して会議や掲示物などで法令遵守の徹底を意識させる

③ 特記事項

・2023年度自己評価結果をホームページにて公開

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・ボランティア活動に参加できる生徒の確保
- ・本校で実施している子育て支援イベントを安心して参加して頂ける環境作り

② 今後の改善方策

- ・同法人の保育施設（ぼけっとランド・キッズ大陸）との連携強化
- ・ボランティア活動が今後増加するため、生徒が参加したいと思えるような働きかけの実施
- ・地域と連携し、本校で実施している子育て支援の案内強化
- ・子育て支援の開放日の増加

③ 特記事項

- ・子育て支援活動
- ・地域貢献活動（ゴミ拾い、町内お祭り、地域の遊びの広場等）

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

秋本委員：昔に比べて施設との関係が充実している。職員の体験をしにきていただきたい。

椿委員：生徒はよく食べて元気に生活している。